

「自然災害総合研究班」の「自然災害研究協議会」への移行について

自然災害科学研究連絡委員会
座長 吉中 龍之進
(埼玉大学工学部)

「自然災害総合研究班」が、平成 12 年度から「自然災害科学研究連絡委員会」に発展的に移行することになった経緯については、平成 11 年度の「自然災害総合研究班」代表であった平澤朋郎東北大学教授が「災害科学研究通信」において簡潔に要約されている通りです。しかし、「自然災害科学研究連絡委員会」は、同委員会に於けるその後の議論により、「自然災害研究協議会」として更に体制を整備することになりました。既に関連する京都大学防災研究所規程などの改正も完了し、「自然災害研究協議会」は平成 13 年 4 月 1 日をもって正式に発足します。

(1) 「自然災害研究協議会」設立の経緯

自然災害総合研究班は 1960 年の発足以来約 40 年の間、広い学問分野に亘る大学の災害研究者の全国的研究連絡組織として、自然災害研究の企画、調整、総括に関する重要な役割を担って来ましたが、1987 年からは科学研究費により安定的にサポートされなくなったことから、それ迄のような活発な活動の維持が次第に困難になり、最近では「突発災害研究」の調整以外には、有意義な機能を十分に発揮出来なくなっていました。このため、1996 年に全国共同利用研究所に改組された京都大学防災研究所に「自然災害科学研究連絡委員会」を設け、安定した基盤の下で従来のような澁刺とした活動の再生が図られた訳です。

平成 12 年度から設けられた「自然災害科学研究連絡委員会」では、その組織、運営方法に関する議論がなされましたが、関連して文部省側の意見の打診も行っておりました。その結果、将来的に運営の基盤を安定的なものとするためには、東京大学地震研究所に設けられている地震予知研究協議会や火山噴火予知研究協議会のような、より正式な組織形態が望ましいと言う結論になり、京都大学防災研究所に全国の大学その他の研究機関に属する研究者の連繋による自然災害研究推進のための「自然災害研究協議会」の設立を図ることについて合意がなされました。この合意に基づき、「自然災害科学研究連絡委員会」では、「自然災害研究協議会」に関する規程の作成について検討するとともに、文部省、京都大学ならびに京都大学防災研究所とも協議を重ねた結果、関連する京都大学防災研究所規程の改正、ならびに本通信に示されるような自然災害研究協議会規程ならびに同申し合わせが整い、本年（平成 13 年）4 月 1 日をもって、「自然災害研究協議会」が発足するに至った次第です。

(2)

「自然災害研究協議会」の目的は、従来「自然災害総合研究班」が担っていたところの、自然災害研究の企画調整、突発災害調査の組織、自然災害研究者のネットワークの構築・維持に関する機能を継続、強化することにあると言えます。加えて、自然災害研究の重点的・計画的推進に関する事項についても協議する機能も期待されています。

協議会の委員としては、地区部会の代表、専門分野の研究者が参加することは「自然災害総合研究班」のときと同様ですが、新たに防災研究を主務とする研究所の代表が参加します。大学の研究所としては東京大学地震研究所、京都大学防災研究所、新潟大学積雪地域災害研

究センターおよび神戸大学都市安全研究センターの 4 つですが、従来科学技術庁に属していた防災科学技術研究所が参加することになるでしょう。

協議会の運営方法は、東京大学地震研究所の協議会をご存じの方なら概ね同様と考えて頂いて良いでしょう。議長は委員の互選により選出されます。また事務局機能の強化のために総務 1 名、突発災害 2 名および企画調査 2 名の担当委員が設けられており、各担当の委員 1 名は京都大学防災研究所から、他の 2 名は協議会から推薦されます。

(3) 自然災害研究者のネットワークについて

自然災害研究者のネットワークに関しては、地区部会ベースの活動の活性化および災害研究情報の迅速かつ有効な交流が不可欠となるでしょう。このためには年数回一方向の情報を提供するだけの従来の研究通信では全く不十分ですので、これに代わり、インターネットを用いた有効な研究者ネットワークの構築が検討されることになるでしょう。なお、従来の自然災害研究シンポジウムは今後も継続されます。

自然災害研究の推進をめざす「自然災害研究協議会」が有効に機能するためには、全国の自然災害研究者の様々な形での積極的な参加が不可欠の条件であることは言うまでもありません。地区部会を通じて、あるいは研究者ネットワークを通じて従来に増すご協力を御願います次第です。

(災害科学研究通信 No.60, 2001 . 3)

(自然災害総合研究班・京都大学防災研究所自然災害科学研究連絡委員会)